

DI 調査結果（令和3年1月-3月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『新型コロナウイルスの影響に留意する必要があるが  
景況感は引き続き改善傾向にある』

【調査概要】

1. 今期(令和3年1月-3月期)の業況調査DI12項目では、9期ぶりに「売上高」がプラスに転じるなど、「原材料単価」を除く11項目が改善している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
  - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が5.1(前回▲2.7)とプラスに転じたが、「収益状況」▲7.5(前回▲10.9)、「資金繰り」▲1.6(前回▲3.5)と改善しているもののマイナスであり、「原材料単価」▲42.6(前回▲13.0)の高騰などにより依然として厳しい状況がうかがえる。
  - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲18.5(前回▲34.4)、「受注残」▲4.4(前回▲15.9)、「生産設備」▲7.9(前回▲15.0)と、持ち直しの動きがみられるが、業種や製造品目によっては、いまだ休業を余儀なくされるところもある。
3. 来期については、「来期受注」11.8(前回▲1.2)、「来期採算」0.4(前回▲7.9)、「来期資金繰り」▲2.8(前回▲8.4)と、「来期受注」が10期ぶりにプラスに転じ景況感は底を脱した感はある。
4. 「企業経営上の悩み」については、引き続き「受注不安定」が44.0(前回61.0)と新型コロナウイルス感染拡大の影響が出ているが、持ち直しが見られる事より「人材不足」が21.4(前回13.8)と増加している。また、「原材料価格」が8.7(前回0.8)と上昇しており、収益・資金繰りへの不安材料となっている。
5. コロナ禍での生産活動のレベル向上とともに、中国経済、北米経済の回復により「売上高」などが増加しており、来期も更なる改善が見込まれる。しかしながら、依然として新型コロナウイルスの影響等により、状況が一変する懸念があり、国・県による更なる資金繰りや雇用維持などの経営安定対策とともに、国による各種規制改革による経済の活性化が必要と思われる。

